

事後評価報告書(日-デンマーク研究交流)

1. 研究課題名:「日本人とデンマーク人のタンパクコード領域集中型シーケンス法による若年発症家族性糖尿病の新規原因遺伝子同定」

2. 研究代表者名:

- 2-1. 日本側研究代表者:国立大学法人岐阜大学医学部附属病院 准教授 堀川 幸男
- 2-2. 相手側研究代表者:コペンハーゲン大学 教授、科学部長 Oluf Borbye Pedersen

3. 総合評価: (A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

日本とデンマークにおける家族性若年糖尿病(MODY)家系の解析を行い、双方のデータを統合・共有化することが出来ている。この結果、MODY の単一遺伝子異常型において、他の遺伝的背景の違いにより表現系が異なることを見出すなど、大きな成果が得られている。また、日本人で同定された希少な遺伝子変異について、デンマーク人においても迅速に検証するなど、共同研究の効果がうまく発揮されている。一方で、家系ごとに遺伝子変異が異なる場合、それらの候補遺伝子変異の中からどのようにして最終的な原因遺伝子を同定するのか、今後の見通しについて具体的な言及があれば良かった。

(2)交流成果の評価について

日本側とデンマーク側で得られたデータの情報交換が良好に行われている。しかし、デンマークからは複数回にわたり日本に研究者が派遣されているが、日本からの派遣が行われていないのは残念である。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本研究交流は重要な疾患を対象とした全ゲノム解析であり、今後のさらなる発展を期待する。また、本研究成果の実用化をめざし、産学連携を積極的に試みる価値があると思われる。今後、日本とデンマークの研究交流を継続することにより本事業の共同研究の成果が論文化されることに期待したい。